

2025 年度 授業コード: 22114500

授業科目	＊地域福祉と包括的支援体制Ⅰ					実務家教員担当科目	-
単位	2	履修	必修	開講年次	2	開講時期	前期
担当教員	梶原 浩介						
授業概要	地域福祉は、児童福祉や高齢者福祉等の対象者別の福祉分野に並置されるものではなく、社会福祉そのものの新しい形態や方法を意味している。本科目を通して、新しい福祉のあり方としての「地域福祉」を捉える視点を学ぶとともに、地域福祉の主体や地域福祉の推進のための制度・仕組みについて理解を深める。 本科目は、前期・後期に分けて講義を実施する。前期では、地域福祉の基礎概念や、民生委員、社会福祉協議会、共同募金等の地域福祉を推進する主体について学ぶ。特に、社会福祉協議会等の基本的な実践技術であるコミュニティワークについて学びを深める。後期では、前期の学びを踏まえ、地域福祉を推進するためのソーシャルワークを中心に学ぶ。特に、近年、社会的つながりの弱い人々や制度の狭間、複合課題等への対応として重視されるようになったコミュニティソーシャルワーク(地域を基盤としたソーシャルワーク)についても学びを深める。						
授業形態	対面授業			授業方法	対面授業のテーマに基づき、反転授業、グループワークなどを実施する。また、ICTを活用した双方向型授業(Google フォーム 等による学習内容の確認等)、自主学習支援(クラスルームによる資料配信等)を実施する。		
学生が達成すべき行動目標							
標準的レベル	1. 地域福祉の基本的な考え方、地域福祉の主体と対象を理解する。 2. 地域福祉に係る組織、団体及び専門職の役割と実際について理解する。 3. 住民参加の意義と方法について理解する。 4. ネットワーキングの意義と方法及びその実際、社会資源の活用・調整・開発、福祉ニーズの把握方法と実際について理解する。 5. 福祉サービスの評価方法について理解する。 6. コミュニティワークの意義や方法等について理解する。 7. コミュニティソーシャルワークについての知識や技術等について理解する。 8. 地域福祉の課題とこれからの地域福祉のあり方について理解する。						
理想的レベル	1. 地域福祉の諸課題についてを認識でき説明することができる。 2. ネットワーキングをする際に必要となる機関、団体、人について説明することができる。 3. 地域福祉の諸課題について多角的に捉えることができ問題点を指摘することができる。 4. 地域福祉に関する学説、理論、政策などについての説明ができる。						
評価方法・評価割合							
評価方法			評価割合(数値)			備考	
試験			60				
小テスト							
レポート			20				
発表(口頭、プレゼンテーション)			10			課題に対する話し合いも含む	

	・社会福祉協議会のボランティアセンターの概要、役割と実際、福祉教育等について解説します。
第12回	社会福祉協議会と福祉サービス利用支援部門 ・総合相談支援部門のうち、運営適正化委員会、日常生活自立支援事業、法人後見と市民後見の養成、生活福祉資金貸付と生活困窮者自立支援事業等について解説します。
第13回	特定非営利活動法人と社会福祉法人-様々な地域福祉の担い手- ・特定非営利活動法人の法的な位置づけ、特定非営利活動の概要等について解説します。 ・社会福祉法人の法的な位置づけ、地域における公益的な取組みなどについて解説します。
第14回	地域福祉の財源と福祉サービスの第三者評価 ・地域福祉の財源と共同募金(実施の方法、現状と課題等)について解説します。 ・福祉サービスの質を担保する制度・仕組みなどについて解説します。
第15回	地域福祉の課題とこれからの地域福祉のあり方 ・地域福祉における課題と今後のあり方等について解説します。 ・前期の授業の総合的なまとめを行います。
テキスト	・川村 匡由 編著『入門地域福祉と包括的支援体制』ミネルヴァ書房出版 ・適宜、レジュメ資料を配布する。
参考図書・教材／データベース・雑誌等の紹介	参考文献、資料等は講義の際に適宜、情報提供する。
課題に対するフィードバックの方法	・対面授業のテーマに基づき、グループワークなどを行い、授業資料等で振り返る。また、ICT を使用して、回答例の提示や自主学習のための資料等を配信する。
学生へのメッセージ・コメント	・より理解を深めていくために、事前にテキストの一読やレジュメ資料による振り返り、授業中に紹介する参考図書等を一読してください。 ・地域福祉領域(地域の問題、行政計画等)の情報に興味関心をもってアクセスし、理解を深めてください。